

管内	鹿本	学校名	植木町立植木小学校
----	----	-----	-----------

## 【学力向上に向けた学校全体としての取組】

### 1 研究構想

#### (1) 研究主題

**自分の考えを持ち、表現できる子どもの育成をめざして**  
 ～基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、問題解決に活かす授業のあり方～

#### (2) 研究主題について

本校では、次の3つの側面から指導を行うことで児童が「自分の考えを持ち、表現できる」ようになることを考える。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- ② 基礎的・基本的な知識・技能を問題解決に活かす。
- ③ 表現の4つの方法を授業の中で身につけさせる。

#### 〔目指す姿〕

表現の4つの方法

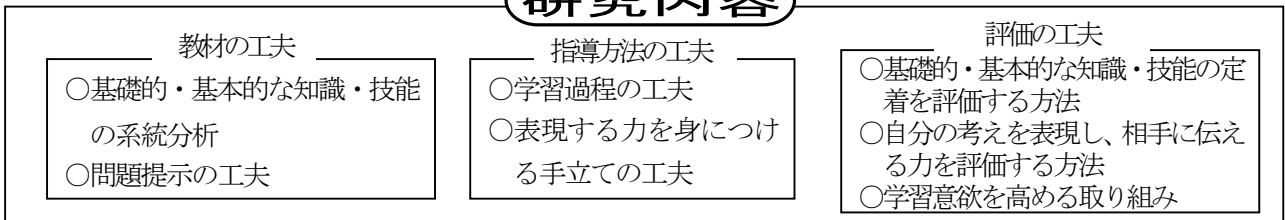
- I 自分の考えを出せる。
- II 自分の考えを書ける。
- III 自分の考えを説明できる。
- IV 自分の考えを他者の考えと比較検討できる。

- I 解決の見通しを言葉で表現できる。
- II 解決手段（言葉や数、式、図、表、グラフなど）やその過程、結果をノートに書き表すことができる。
- III 自分の考えが相手に伝わるように説明できる。（簡潔に、筋立てて）
- IV ○自分の考えと相手の考えを比べて、共通点や相違点が見える。  
 ○よりよい考え方（合理的、一般化できる等）を見出すことができる。

#### (4) 研究の仮説

基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させ、それを問題解決に活かす授業を行えば、自分の考えを持ち、表現できる子どもを育て、学習意欲を高めることができる。

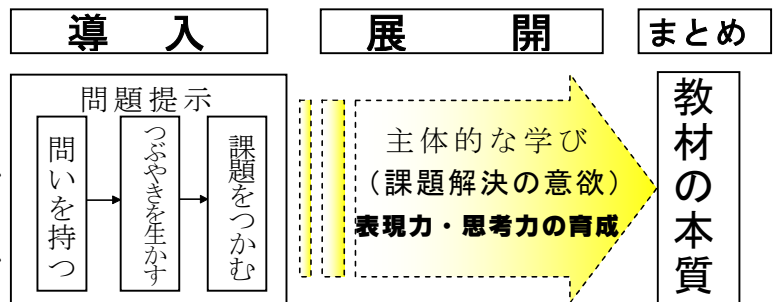
## 研究内容



### 2 研究の内容

#### (1) 教材の工夫

子どもの主体的な学びを支えるものは学習（課題解決）への意欲である。本来、教材には価値や魅力（本質）があり、子どもと教材との出会いを工夫することで、学習意欲の高まりが期待できる。



#### ① 基礎的・基本的な知識・技能の系統分析

##### ア 学年・単元間の系統分析

「小学校学習指導要領解説（算数編）」をもとに、知識・技能が何かを明確にする。

##### イ 教科書における図・表・グラフ・ことばの式の系統分析

教科書について、各学年における図・表・グラフ・ことばの式の取り扱いを明確にする。

#### ② 問題提示の工夫

子どもの学習意欲を引き出すために全員に解決の見通しを持たせる（課題をつかませる）手立てを大切にする。

かめたん しらべて使える  
わがわがやさいしらす考える

(2)指導方法の工夫

① 学習過程の工夫

単元全体を見通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着に重点を置く時間と、問題解決のための活用に重点を置く時間を考え、学習過程を工夫する。各学習過程で表現の方法や評価の方法を位置づける。(下図参照) (学習過程の工夫の例)

【活用に重点を置く時間】		【定着に重点を置く時間】	
<p>Aこれまで習得している知識・技能の確認(カード学習・一問テスト)</p> <p>Bこれまで習得した知識・技能を活用すれば解けそうだという見通しを言葉で表現する。 (表現の方法Ⅰ)</p> <p>C言葉、数、式、図、表、グラフを使って、相手に分かるようにノートに表現する。 (表現の方法Ⅱ)</p> <p>D「話し合いのマニュアル」を使って、自分の考えが相手に伝わるように説明する。 (表現の方法Ⅲ)</p> <p>E自分の考えと相手の考えを比べて、共通点や相違点を出し合う。 (表現の方法Ⅳ)</p> <p>F「かわいい」算数の視点で自分の考えを他者の考えと比較検討し、よりよい考えを見出す。 (表現の方法Ⅳ)</p> <p>H本時の学習を自分の言葉で簡単にまとめる。</p> <p>I思考力・表現力の自己評価を行う。</p>	既習事項の ふり返り		<p>Aこれまで習得している知識・技能の確認(カード学習・一問テスト)</p> <p>Bこれまで習得した知識・技能を活用すれば解けそうだという見通しを言葉で表現する。 (表現の方法Ⅰ)</p> <p>C言葉、数、式、図、表、グラフを使って、相手に分かるようにノートに表現する。 (表現の方法Ⅱ)</p> <p>D「言葉のたから」を使って、自分の考えが相手に伝わるように説明する。 (表現の方法Ⅲ)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>練習問題における表現の手立て</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○答えだけでなく、式の意味や計算の過程を説明する。</li> <li>○定義や性質を使って答えを説明する。</li> <li>○図の意味を説明する。</li> </ul> </div> <p>G基礎的・基本的な知識・技能の定着状況の評価する。</p> <p>H本時の学習を自分の言葉で簡単にまとめる。</p>
	課題把握	課題把握	
	自力解決	自力解決	
	共同解決	共同解決	
	共同解決(班)	習熟	
	共同解決(全体)	習熟	
習熟	まとめ		
まとめ	まとめ		

まだまだ不十分な点はあるが、単元によっては、活用と定着のめりはりをつけて学習過程を組み合わせることができつつある。(司会用・発表用マニュアル：低学年)

② 表現する力を身につける手立ての工夫

A 「話し合いのマニュアル」

自分の考えを他者に伝えるために、班や全体で意見を発表する場を設定する必要がある。そこで、班(ペア、3人組等)での話し合い活動をスムーズに進めるために、話し合いマニュアル(司会用・発表用・聞き取り用)を作り、教室に掲示したり持たせたりして活用させる。

(右図参照)

低学年部では考えを書くシート(考えるかんちゃん)を活用し、子どもたちも少しずつなれてきている。また、他教科においても「話し合いのマニュアル」を活用している。

**はなしあいマニュアル**

1 **あいさつ**  
○「はなしあいをはじめます。」

2 **なにをはなしあうのか**  
○「～について、かんがえをいってください。」

3 **かんがえをだしあう**  
○「(「はん」さん、どうぞ。」「わたしのかんがえは、○○です。そのおぼはへへだからです。」

◎「ありがとうございます。」「( )さんにしつもんがあります。……ですか?」

◎「いびんやかんそうは、ありませんか。」 ◎「いびんはんにかんがえをほびようする。」

◎「うさぎ(うさぎ)さんおねがいします。」

※(○)～(◎)まくりかえす。

「研ぐも、( )さんとおなじかんがえです。」

「わたしは、( )さんのかんがえとは、ずいぶんちがいます。」

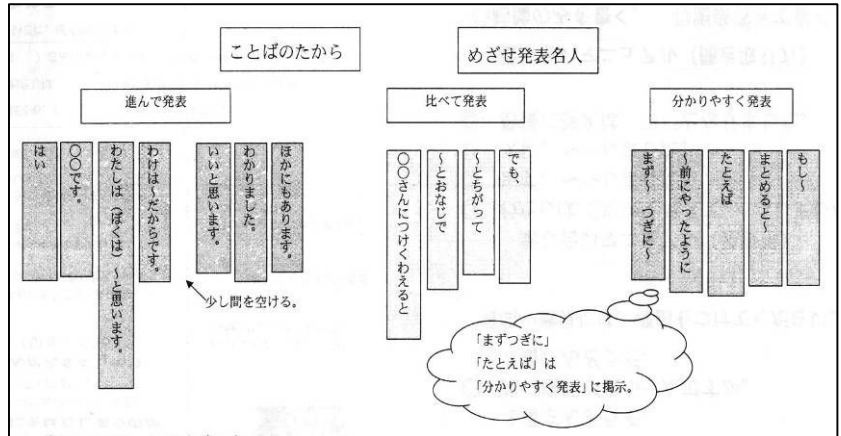
「( )さんのほびうは、とてもわかりやすくよかったです。」

4 **まとめる**  
◎「だれのかんがえが、よかったですか。」  
◎「これで、はなしあいを終わります。」

イ 「発表名人～ことばのたから～」

(教室掲示用：ことばのたから)

自分の考えをより分かりやすく他者に伝えるために、「進んで」「比べて」「分かりやすく」の3つの観点から、発表の時に使う有効な言葉を教室前面に掲示する。算数科に限らず、授業の様々な場面で意識して使わせるようにした。(右図参照)



児童にとっての目安として定着してきているが、学年の段階に応じた、教師の言葉かけの基準にもなっている。

(3) 評価の工夫

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の定着を評価する方法
- ② 自分の考えを表現し、相手に伝える力を評価する方法
- ③ 学習意欲を高める取り組み
  - 授業の中で子どもの意欲を高める言葉かけを意識して行った。

「子どもたちが「うれしい」「やる気がでた」と感じた言葉かけ」

- ごうかく！ ○花まる！ ○100点だよ。 ○できたね。 ○がんばったね。
- この調子！ ○計算博士だね。○すごい！ ○あと少しだよ。○あっ そうか。
- なるほど！ ○パーフェクト！○光る言葉だね。 ○ その言葉をまっていたよ。
- その方法簡単そうだね。 ○ このやり方がいいね。 ○ おもしろい考えだね。
- ~君・~さん、すごいね。 ○ 今の考えは、よかったよ ○ もうちょっとだね。
- そこが、大事なんだよ。 ○ 先生も気づかない考えでびっくりしたよ。 いいね。
- あきらめないで、ファイト！ ○ 自分の考えを信じていいよ。
- すごくわかりやすい考えだよ。 ○ いいところまで考えていたね。
- そんなこと考えついたの？ おどろいたよ。 ○ いいところに気づいたね。感動したよ。
- 間違っているけど、考えはとってもすばらしいよ。いいところに気づいたね。
- あなたのおかげですごく考えが広がったよ。ありがとう。

3 成果と課題

本県学力調査において、平成18、19年度とも各観点とも県平均より上回った。また、NRTの結果(右図参照)からも、これまでの取組の成果が少しずつ表れてきていると考えている。

子どもの意識調査から、習った言葉や絵や図を使ってわかりやすく発表する意識が高まっており、話し合いに対する意識が向上していると考えられる。

一方で、基礎的、基本的事項の定着とその活用の工夫の取組を行ったが、不十分な点も多かった。

職員の共通実践による、学ぶ意欲を身につけさせる指導と、指導に生かす形成的評価の工夫についての研究・実践を充実させていきたい。

